



いづみさの昔と今 第284回

「織豊期の泉佐野―信長の紀州雑賀攻め―」

今回は前号に引き続き、10月より開講予定の歴史学講座「戦国史編『織豊政権と本願寺』」に関連して、「織豊期の泉佐野―信長の紀州雑賀攻め―」について紹介します。

天下統一へと猛進する織田信長は、自身と対立する大坂(石山)本願寺と戦いを交えながら、大坂本願寺を陸と海から支援する雑賀衆の討伐へと乗り出します。雑賀衆は当時、三緘(みからみ)と呼ばれる宮郷、中郷、南郷、さらには雑賀荘、十ヶ郷の五つから成り立っていました。また、多数の鉄砲を所有し、真宗門徒も多いことから、大坂本願寺の主力となっていました。

天正5(1577)年2月9日、信長は大軍を引き連れ京都を発ち、16日に和泉の香庄(こののしょう・現岸和田市)に陣をとると、翌17日には自身に味方する根来寺の杉之坊と合流。18日には佐野に陣をおき、22日には志立(信達・現泉南市)へと軍勢を進めます。信長はここから軍を山手と浜手の二軍に分け、山手は佐久間信盛・羽柴秀吉、荒木村重らが杉之

坊、三緘の先導で進み、浜手は滝川一益、明智光秀、筒井順慶らが淡輪口(現岬町)から海沿いに進軍します。浜手から進んだ軍勢により十ヶ郷の拠点である中野城(現和歌山市)は攻め落とされ、2月28日に降伏。その勢いのまま鈴木重秀の居城・雑賀城を攻めようとしますが、なかなか芳しい成果は得られず、3月15日、鈴木重秀や土橋守重をはじめとした雑賀荘と十ヶ郷の主だった者が誓紙(せいし)を差し出し、降伏したことを条件に兵を引きました。香庄まで戻った信長は雑賀衆の再起に備え佐野に城を築くように命じ、自らの義理の従弟にあたる津田信張と根来寺杉之坊を駐留させます。さらに和泉国の一揆寺内を破却するよう命じました。しかし、同年8月に雑賀荘・十ヶ郷は三緘へ攻め込みます。これによりこの雑賀攻めは、信長の勝利とは言い難いものだったといえます。

天正8(1580)年間3月、信長と大坂本願寺の間に和睦が成立。本願寺の宗主であつた顕如は大坂本願寺を退去し、紀伊鷺森御坊(現和歌山市)へと下り、約11年に及ぶ「石山合戦」は終結しました。翌天正9(1581)年、信長は京都で大規模な馬揃え(うまぞろえ・武家の行事の一つ)を行い、このとき和泉からは寺田又右衛門や根来寺杉之坊、さらには「佐野一統者共」が上洛を命じられました。この「佐野一統者共」は、佐野城にいたる佐野在城衆であつたと考えられます。次回は豊臣政権期の泉佐野について紹介します。



▲織田方に追われ、一時、中庄にある民家の井戸で身を隠したとのいわれのある隠れ井戸

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いづみさの
☎469-7140 Fax469-7141
休館日 月曜日、祝日(祝日が月曜日の場合には月曜日と火曜日が休館)
開館時間 午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
入館料 無料

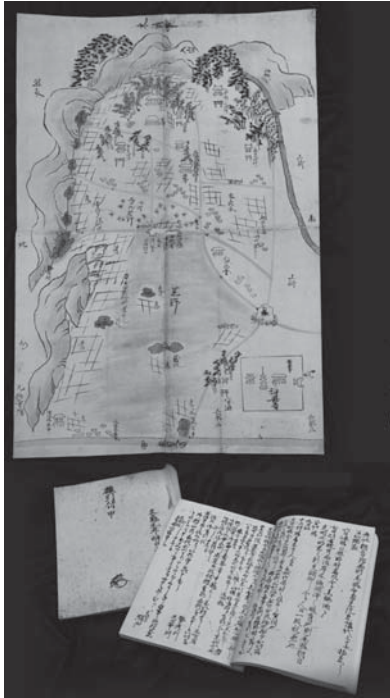
日本遺産・中世日根荘を巡る①

「日本遺産」に認定された「旅引付と二枚の絵図が伝えるまち―中世日根荘の風景―」のストーリーを構成する泉佐野市の文化財等を紹介し、問合先 文化財保護課



今年5月20日、「旅引付と二枚の絵図が伝えるまち―中世日根荘の風景―」のストーリーが日本遺産に認定されました。地域の歴史的な魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーを「日本遺産(JapanHeritage)」として文化庁が認定するもので、今後本市では、地域の文化財群を総合的に整備・活用し国内外に発信することにより、地域の活性化を図る予定です。(詳しくは広報7月号をご覧ください。)

泉佐野市が誇る史跡「日根荘」をみなさんに知っていただくため、日本遺産に認定されたストーリーを構成する文化財や史料などから、中世日根荘の時代より現在まで伝えられる当時の荘園の風景や文化などを紹介する「日本遺産・中世日根荘を巡る」のミニコーナーを今月からスタートします。



写真上・和泉国日根荘日根野村絵図、写真下・政基公旅引付

※絵図・旅引付の写真は、歴史館いづみさの所蔵の複製を使用(原本は宮内庁書陵部所蔵)